

だいせん

発行 / 青少年育成大仙市民会議

平成30年度 県南地区・青少年育成運動活性化研修会



3月9日に横手市大雄で「平成30年度県南地区・青少年育成運動活性化研修会」が開催されました。

その中で青少年育成大仙市民会議の佐藤久美子会長が、11月に東京都で行われた「平成30年度子供・若者育成支援のための地域連携推進事業中央研修大会」に参加して学んだ内容について発表し、青少年を支援する全国各地の取り組みを紹介しました。

発表内容の抜粋は次のとおりです。

研修大会では子ども・若者育成支援に関する内閣府の業務説明の後、「犯罪から子どもを守る」と題して特別講演が行われました。犯罪者が子どもと接触を図るのは、侵入しやすく地域の人の関心が薄い場所（ホットスポット）なので、それを意識してパトロールなど安全対策をすることが、犯罪機会を減らすことにつながるとのことでした。

シンポジウム「若者の居場所を考える」では札幌の若者支援について基調講演がありました。家・学校以外の若者の居場所づくりとして、学校に校内居場所カフェを作ったり、食べ物をキッチンカーに乗せて夜の「すすきの」の街に走らせ、子ども食堂のようなことをしたりしているそうです。パネリストからは、子どもは指導・評価したがる大人や、かわいそうな「あなた」を助けたいという「支援臭」がする大人には近づかないので、ただ寄り添うことが大事だという話がありました。

東京都杉並区の大型児童センターで中高生の支援をしている担当者からは、支援に大切なこととして、大人が無理なくそっと寄り添うこと、子どもが自信をつけたら仲間との出会いや関係づくりをサポートして仲間との絆ができれば大人は静かに身を引くこと、大人のルールを押しつけ中高生をコントロールしようとしめないこと、などを挙げられました。

名古屋市子ども若者相談センターのセンター長は、相談がしたくてもできない人の側まで近づいていくことの大切さを強調し、人を回復させる力は地域にあるので、「あなたが必要だ」と地域で恐れずに声をかけていきましょうと話していました。

青少年育成大仙市民会議総会 青少年育成大仙市民会議功労表彰



表彰を受ける藤間妙寿々さん（写真左）

5月17日、大曲交流センターにて平成30年度青少年育成大仙市民会議総会が開催され、今年度の事業計画案や予算案などが承認されました。

また総会に先立ち、平成30年度青少年育成大仙市民会議功労表彰が行われ、日本舞踊師範の藤間妙寿々氏が表彰されました。

藤間氏は自身の教室に通う子供たちの指導に情熱を注ぐとともに、地元の幼稚園や小学校にて着物の作法や日舞のすり足などの体験活動を続けており、日本舞踊を通じて青少年の健全な育成に尽力されてきた功績が評価され、この度の表彰となりました。

